

富士吉田市出身の志村正彦氏について

本市出身の志村正彦氏は「フジファブリック」の一員として、テレビやメディアなどに露出することなく独自の音楽性を貫くスタイルにより、多くのファンに愛されていました。

市内の下吉田第一小学校、下吉田中学校と吉田高校で出会った同級生で2000年に結成したバンドはデビューを目指し上京、紆余曲折を経て2002年にはインディーズで初めてとなるアルバムを発表、2004年にはメジャーデビューを果たし、志村氏の創り出すその独創的な詩と旋律、そしてその作品に命を吹き込む彼のボーカルに多くのファンが魅了されていきます。

2005年、2008年にアルバムを発表、ライブ活動も日比谷野外大音楽堂、両国国技館と年々規模を拡大していきました。

さらに、2008年5月31日には、夢だった富士五湖文化センターでのライブを実施。ファンで埋め尽くされた会場には志村氏の同級生もたくさん集まり、中学生時代の大地讃頌で始まったライブはファンの間では今も伝説となっています。

2009年5月、新たなステージを迎えた4枚目のアルバムを発表し、更に大きな活躍が期待されていましたが、同年12月24日、志村氏は突然この世を去ってしまいました。

15歳だった志村氏には、富士急ハイランドコニファーフォレストで行われたライブに感動し影響を受け、音楽家を志すきっかけとなり、ミュージシャンになった暁にはいつかこの場所でライブをしたいという目標がありました。2010年7月17日に富士急ハイランドコニファーフォレストにて行われたライブでは、15年越しの志村氏のもう一つの夢が本人亡き後に実現しました。フジファブリックと縁の深い有名ミュージシャン15組がゲストボーカルとしてフジファブリックの歌を2曲ずつ歌唱・演奏し、彼の残してきた足跡は偉大であったことを感じるライブとなりました。

生前、彼は富士吉田を心から愛し、その想いを歌に残しています。またインタビュー記事などでも必ず富士吉田を話題にし、彼の心にはいつも富士吉田が大きく存在していたことと思います。